

2023 年度事業計画

【キーパーソン 21 の活動目的】

キーパーソン 21 は、主に小中学生から大学生世代に対して、様々な社会人との交流の場を作り、自分の将来について考えるきっかけを持つことで、一人ひとりが視野を広げ、社会へ旅立つことの自覚と自立心を醸成していけるよう寄与することを団体の目的としています。また、すべての世代が、わくわくしながら主体的に社会参加することを支援し、一人ひとりを最大限に活かす社会を創造することを目指します。

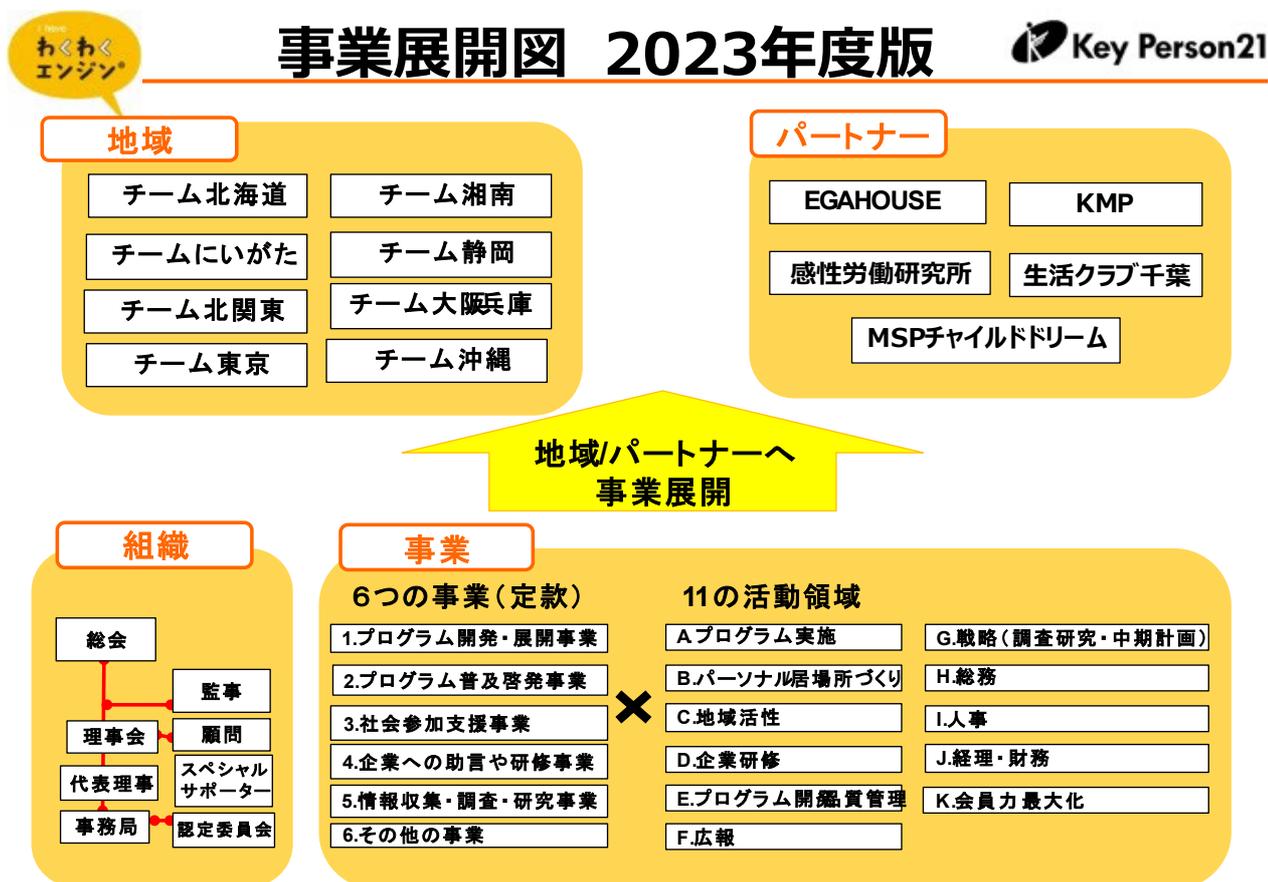
【2023 年度活動方針】

- 「わくわくエンジン」のコモンズ化（共有化・公共化）を目指す。
- 全国各地のわくわくイノベーターをはじめとする会員の想いを実現するために、コミュニケーションを強化する。

● 2023 年度の重点施策

- 「わくわくナビゲーターたち」が「わくわくエンジン」を自身の日常の生活の中で活用できるように、出来事などをシェアし共鳴し合える「わくなびコミュニティ」をつくる。
- 「わくわくエンジン」が地域に浸透するよう、新しいチャレンジをしようとする会員や地域チームのメンバーの会議や交流の場を作る。

【事業展開図】



【11 の活動領域のテーマ】

- A. プログラム実施：
学校や地域において顔の見える関係の中で、子どもたちの主体的な活動に繋がるよう取り組む。
- B. パーソナル/居場所づくり：
親子向けオンラインやジュニアわくナビなど個人のサポートをする。
- C. 地域活性：
各地域の会員や地域チーム、パートナーが自立的に活動できるよう取り組む。
- D. 企業研修：
全国各地において、共感する仲間となる企業を増やす。
- E. プログラム開発/品質管理：
わくわくエンジン発見から生まれた「やってみたい」を応援する。
- F. 広報：
DoWaku-Waku、Be Keyperson を合言葉にわくわくを伝播する。
- G. 戦略：
中期計画を立案する、社会へ提言するための調査研究組織を検討する。
企業アプローチのための戦略を立てる。
- H. 総務：
わくわく活動することができるような組織体制を目指す。
- I. 人事：
わくわく活動することができるような組織体制を目指す。
- J. 経理・財務：
寄付と企業連携により財政の基盤を整える。
- K. 会員力最大化：
会員同士の交流を深め、共創コミュニティとしてのさらなる進化を目指す。

事業計画 目次

【事業部門】

(1) 特定非営利活動に係る事業

① キャリアプログラムの開発、展開事業

1) プログラム開発事業 <事業展開図 E プログラム開発/品質管理>

2) プログラム展開事業

ア. プログラム実施 <事業展開図 A プログラム実施>

首都圏/川崎/地域チーム

イ. オンライン実施 <事業展開図 B パーソナル/居場所づくり>

オンライン/居場所において

② キャリアプログラムの普及啓発事業

1) わくわくナビゲーター養成講座および講師育成 <事業展開図 E プログラム開発/品質管理>

2) 全国への普及

3) 広報、コミュニケーション活動 <事業展開図 F 広報>

③ 社会参加支援事業

1) 川崎市学習支援・居場所づくり事業（なかわく/こすわく） <事業展開図 B パーソナル/居場所づくり>

ア. なかわく

イ. こすわく

2) 川崎市寺子屋事業 <事業展開図 B パーソナル/居場所づくり>

④ 人材育成を目的とした、企業、団体等への助言、研修事業 <事業展開図 D 企業研修>

⑤ 教育に係わる情報収集、調査研究及び発信事業 <事業展開図 F 広報> <事業展開図 G 戦略>

⑥ その他目的達成のために必要な事業

1) 会員力最大化 <事業展開図 K 会員力最大化>

(2) その他の事業

① 寄贈品、グッズなどの物品販売

② 著作、出版物の制作・販売

③ 会員のサークル活動支援事業

【管理部門】

1) 財政基盤を構築する <事業展開図 J 経理・財務>

2) 組織改革・基盤強化 <事業展開図 H 総務 I 人事>

3) 戦略を立案する <事業展開図 G 戦略>

【事業部門】

(1) 特定非営利活動に係る事業

1) キャリアプログラムの開発、展開事業

① プログラム開発事業 <事業展開図 E プログラム開発>

■ 23 年度のテーマ

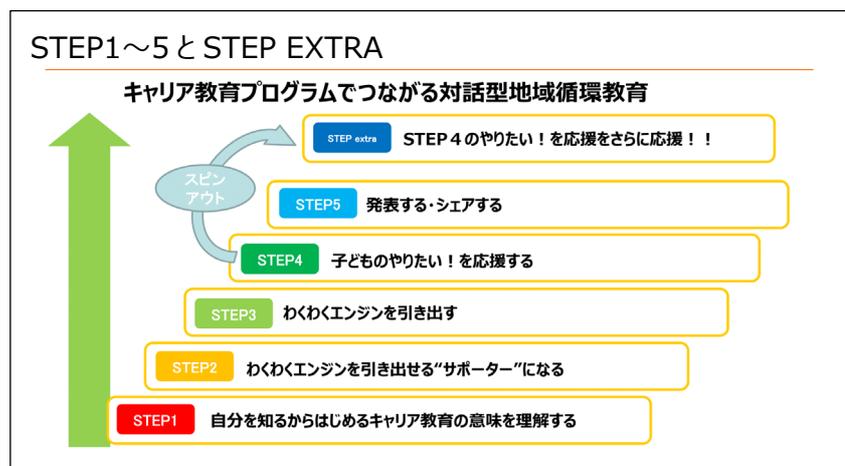
わくわくエンジン発見から生まれた「やってみたい」を本気で応援する

■ 23 年度の目標

「やってみたい」を本気で応援するプログラム構成を目指す

■ 活動項目

- 一歩踏み出すための応援 STEP 4-5 の事例開発を継続する
- STEP EXTRA の事例開発チャレンジを検討する（子どもたちのやってみたいからスピノフして地域にとびだすようなアクションを STEP EXTRA という）
- 親向けわくわくエンジン活用倶楽部を継続する



2) プログラム展開事業

■ 23 年度のテーマ

わくわくエンジン発見！から生まれた「やってみたい」を応援する実践事例づくり

■ 23 年度の目標

- ① 「やってみたい！」を引き出したら実行を応援しよう！STEP1-5 と EXTRA の実践事例づくり
- ② ジュニアわくナビの育成モデルづくりの継続。ジュニアわくナビのやってみたいを応援する
- ③ わくわくエンジンを発見から始まる「進路サポートプログラム」の実践/学校+地域の居場所
- ④ 先生がキーパーソン！先生のわくわくエンジン理解促進/教員研修
- ⑤ キャリアパスポートやコミュニケーション力向上研修/教員研修
- ⑥ 企業の子ども応援プロジェクト：意味付けの強化「コミュニティスクール」

ア. プログラム実施 <事業展開図 A プログラム実施>

学校や地域において顔の見える関係の中で、子どもたちの主体的な活動に繋がるよう取り組む。

■活動項目

【首都圏におけるモデルづくり】

- ★渋谷区/シブヤ未来科の事例づくり with カシオ計算機株式会社
- ★私立かえつ有明中学校/保護者巻き込み型探究授業内での展開
- ★江東区有明プロジェクト/地域学校協働本部との展開
- ★豊島区立明豊中学校 PTA/卒業生のジュニアわくナビと共に
- ★JA 全農/酪農系専門学校において
- ★その他の学校におけるプログラム実施

【川崎におけるモデルづくり】

わくわくエンジンを発見した子どもたちの中から生まれる「やってみたい！」を応援する STEP1-5 までの実践事例のモデルづくりとして、川崎市内の学校を中心に、企業、行政、PTA、地域の皆さまとキーパーソン 21 が協働し、「子どもたちのやってみたい！」を応援するプログラムを二年目として推進する。

- ★ 川崎市立宮内中学校×富士通株式会社×川崎市教育委員会×PTA×キーパーソン 21×地域
- ★ 川崎市立新城小学校×ジェクト株式会社×キーパーソン 21×地域
- ★ 川崎市立久本小学校×株式会社エヌアセット×株式会社シーエスター×高津区の企業や地域の大人

また、上記 3 校の事例から、「子どもたちのやってみたい！」をさらに学校教育からスピノフし、地域が応援する STEP EXTRA のモデルづくりにチャレンジする。

【地域チーム】

★チーム北海道：チーム内外の関係性を整理し、わくわくエンジンの概念を広めるための事業戦略及び計画を立て直す。継続し、どさんこ応援サポーター企業（企業からのマンスリー寄付企業）の拡充を行う。

★チームにいがた：これまでの実施校との関係継続。プログラムサポーターを増やす計画（養成講座の開催、地域サポーターの誕生をねらう）。事務局との協働で教職員研修の実施し、教員の理解を促進する。

★チーム北関東：自由学園プロジェクトの継続、学園内でのキャリアの授業との連携を強化。その他、イベントを実施し、やりたいという団体と繋がり(子ども食堂、学習支援の場等)プログラム提供しながら地域における共創造を進める。

★チーム東京：これまでの実施校との関係継続。コロナで中断していた実施校へもアプローチする。会員居住地域での実施（学校、親子イベント）の推進。プロジェクトマネージャーを担当できるメンバーを増やす。

★チーム湘南：チームテーマ「子どものわくわくを全力サポート！！」これまでの実施校との関係継続。役割固定でなく、できるだけいろいろなメンバーがプロジェクトマネージャー、メイン、アシスタント、サポーターを経験できるようにし、各自のプログラム実施のクオリティを向上させる。事務局、他地域チームとの連携プロジェクトも推進する。

★チーム静岡：これまでの実施校、関係各所との関係継続。打ち合わせの際の相手先（先生、地域コーディネーター、とのコミュニケーションをより深め、キーパーソン 21 のプログラムがどの位置づけで実施するのが最適か年間スケジュールを見渡して提案していく。会員だけでなく、地域の大人、保護者（PTA 等）を巻き込んだプロジェクトの機会を創出する。企業連携、助成金等の獲得もねらう。

★チーム大阪・兵庫：チームテーマ「チームメンバーのすき・やりたいをもっと知る！」チームメンバーのやりたい

を形にする。やりたい人がプロジェクトマネージャーをできるような体制をつくる。プログラム実施後の振り返りを充実させ、学びをチーム内で共有する。養成講座の開催をはじめ、地域サポーターや、地元企業を巻き込むプロジェクトを増やす。

★沖縄：地域の子どもたちの居場所での実施現場を増やす。将来にわたっても子どもたちが帰ってこられる場所（「家」）となり、途切れることのない支援（循環）が地域全体に生まれるきっかけをつくりたい。コロナで中断していた実施場所へのアプローチをする。

【その他の地域】

実施校としての専門学校などへのヒアリングを通じ、目的にそったプログラムを必要に応じて、時にはカスタマイズも含めてお届けする。また、実施後については、オンライン等でフォローアップし、進路選択にまで関わる事例をつくる。

イ. オンライン実施 <事業展開図 B パーソナル/居場所づくり>

親子向けオンラインやジュニアわくナビなど個人のサポートをする。

★「オンラインですきなものビンゴ」

生きづらさ（不登校など）を抱える家族へのアプローチ

コミュニティづくり：わくわくエンジン活用倶楽部等

・居場所づくりを行っている団体との連携

★川崎市高津区の NPO 法人フリースペースたまりばとの連携でモデルをつくる。（東急子ども応援プログラムによる資金支援）

・公設民営のフリースペース「えん」

・若者自立・就労支援の「ブリュッケ」

② キャリアプログラムの普及啓発事業

1) わくわくナビゲーター養成講座および講師育成 <事業展開図 ⑤プログラム開発>

■ 23 年度のテーマ

わくわくエンジン[®]を日常生活に活かす

プログラムを通して、人間力の土台を作る。

■ 23 年度の目標

わくわくナビゲーターの学びと成長のために、オンライン上でコミュニティを作る。

■ 活動項目

【わくわくナビゲーター養成講座の開催】

・川崎本部開催（6 回）

・地域開催は普及地域の状況に合わせて開催

・改訂前の講座を受けたわくわくナビゲーターに改訂やプログラムの変更を伝える段取りの実行

・「オンラインですきなものビンゴ」わくナビ育成コースを開催

・パートナー向け研修（パートナーからの依頼に応じ開催）

- ・新規パートナー団体の研修を実施する。

【わくわくナビゲーター講師の育成】

- ・「すきなものビンゴ&お仕事マップ」のわくわくナビゲーター養成講座の講師を 1 級認定者を対象に養成する。
(希望する地域のわくナビ 1 級者から 4 名程度)
- ・各地のわくナビ 2 級者から希望者を募り 1 級養成する。
- ・更新の仕組みの見直しと、運用を検討する。

【認定委員会の開催】

- ・1 級認定と講師認定を行う。2 回開催予定。

2) 全国への普及<事業展開図 ③地域活性>

■ 23 年度のテーマ

キーパーソン 21 に協働したいと思う団体が自立的に活動できるよう推進する。

■ 23 年度の目標

- ・事務局に集まる各地からの活動にまつわる知見を地域チームやパートナーと共有し持続可能な活動を促進させる。(情報のブラッシュアップ)
- ・地域で活動したい人がスムーズに開始できるための情報の整理をする
- ・地域教育システム導入事例を増やす
- ・わくわくエンジン[®]が地域活性につながる事例を発信する(広報と連動)

■ 活動項目

【地域チームによる活動】

- ・各地域チームでの事例を題材に、全地域チーム希望者が参加する戦略ミーティングで情報共有し合う。
(2~3 か月に 1 回)
- ・事務局や他地域との協働プロジェクト検討と実施
- ・おもしろい仕事人がやってくる(講演プログラム)等、「すきなものビンゴ&お仕事マップ」と合わせて実施効果のあるプログラム開催の検討する

【パートナーとの協働】

- ・プログラム実施提案にとどまらず、パートナーの事業形態に合わせたあり方を相談しながら進める。
- ・ヒアリングとフォローアップ(オンライン&リアルで 3 か月に 1 回程度)

【その他の地域や新規地域における活動】

- ・自分の地域でやりたいと思う人がやりやすくなるためのガイドラインをつくる(STEP1-5)
- ・子どもたちがわくわくエンジンを発見したのち、やってみたいを応援し、伴走する事例をつくる。
- ・先生や他団体との接続や、コラボレーションの可能性を模索する
- ・規模や資金等の事情を踏まえた多様なあり方や繋がり方に柔軟に対応できるよう整理する。

3) 広報、コミュニケーション活動<事業展開図 F 広報>

■ 23 年度のテーマ

Do Waku Waku, Be Key Person を合言葉にわくわくを伝播する。

■ 23 年度の目標

会員による全員広報を目指し、プロジェクトにかかわる情報をタイムリーに発信し合う。

■活動項目

【外部への広報】

- ・共感しそうな有識者（インフルエンサー/著名人）との対談を企画する
- ・等身大で応援したくなる SNS 発信をする
- ・ステークホルダーとの関係性構築やより多くの仲間を得るための交流会などを開催する
- ・会員とともに寄付やマンスリーサポーターの告知を強化する

【内部広報】

- ・団体やプログラム関連資料を整理し会員に展開する
- ・会員と共に進むためにキーパーソン 21 の日を毎月 21 日開催し、情報をシェアし続ける。

③社会参加支援事業

1) 川崎市学習支援・居場所づくり事業 <事業展開図 B パーソナル/居場所づくり>

■23 年度のテーマ

生活環境や多様な生きづらさを抱える子どもたちを大切な私たちの「地域の子」として、行政や学校、児童相談所、地域の NPO などの関係各所と連携しながら、一人ひとりの変化変容と成長を中長期的にサポートする。

■23 年度の目標

不登校の児童生徒が増えている現実に、一人ひとりの子どもに寄り添い、未来の自分に希望を感じ自分らしい進路選択のサポートを続けられるように、2022 年度より昼間の時間帯に開室し始めたこすわくを継続できるように寄付金の募集をする。

■活動項目

ア. 川崎市からの委託事業「学習支援・居場所づくり事業（通称なかわく）」を行う。（10 年目）

川崎市内 2 か所において週 4 日開催

- ・オンラインによる学習支援と居場所機能を充実する
- ・学習支援の現場のメンバーによるわくわくエンジン[®]活用モデルを試行する
- ・中 3 生を対象に面接対策としてわくわくエンジン[®]発見プログラムを実施する
- ・昨年度創設した「なかわくクラブ」を継続する。子どもたちに体験、経験の機会を設け、学業とは異なる思考力や発想力を培う

イ. 自主運営事業「学習支援・居場所づくり事業（通称こすわく）」を行う。（9 年目）

川崎市内 1 か所、週 1 回開催

- ・なかわく、こすわくの超えて、行き来できる融通性をもって多様な子どもたちに対応する。
- ・不登校の児童生徒の増加が顕著で、川崎市からの助成金と寄付によって費用を捻出する。

2) 川崎市寺子屋事業 <事業展開図 B 居場所づくり>

■23 年度のテーマ

子どもたちの「やってみたい」を応援する

■23 年度の目標

- ・学習教室では、子どもたちそれぞれのわくわくエンジン[®]を発動させた活動をサポートする
- ・体験活動では、「○○をやってみたい子集まれ！」として、主体的に行動するという意識づけを図る

■活動項目

川崎市教育委員会より受託している寺子屋事業を、中原区内にある川崎市立今井小学校において行う。学習と体験活動の二つが主な事業（8年目）

★学習

今井小学校の児童を対象に、子どもたちの放課後の居場所の提供や異学年交流、地域の大人や保護者を中心とする寺子屋先生による学習支援を行う。

日時：水曜日の放課後

場所：今井小学校図書室

回数：30回/年

内容：宿題、音読、読書、工作など児童のやってみたい！をサポート

★体験活動

今井小学校在籍の親子を対象に地域の NPO ミニかわさきや「モモの時間どろぼー」の劇団とのコラボにより、普段学校の授業では学びを親子で体験する機会を提供する。

日時：土曜日

場所：今井小学校体育館

回数：6回/年

内容：劇「グレイッシュとモモ」や、地域の NPO ミニかわさきのプログラム提供



④ 人材育成を目的とした企業、団体等への助言、研修事業

<事業展開図D企業研修>

■ 23 年度のテーマ

人的資本経営の一環として、キーパーソン 21 の活動に共感する企業を増やす。

■ 23 年度の目標

企業向けのアプローチスキームの確立および、提案資料を作成する。

人材育成/越境学習の研修にキーパーソン 21 のプログラムを採用する企業の創出する。

■ 活動項目

【既存企業との関係性構築】

学校、行政および企業との関係性構築、交流会を開催する@川崎

【新規企業開拓】

・社会貢献活動に熱心な企業に提案し仲間を増やす。

・企業向けのアプローチスキームの確立および、提案資料を作成する。

キーワード：人的資本経営、パーパス経営、CSR/ESG 経営、人材育成/越境学習、ウェルビーイング

⑤ 教育に関わる情報収集、調査研究及び発信事業 <事業展開図 G 戦略>

■ 23 年度のテーマ

わくわくエンジン[®]のコモンズ化を目指し、社会的な視野で取り組みや協働できる仲間の可能性の探究

■ 23 年度の目標

・調査研究活動に必要な予算やリソースを踏まえた実現可能性を検討する。

・社会的影響力のある人や組織とのつながりを創る

・コモンズ化や、社会への共感を意識した情報を整理し発信する

■ 活動項目

【調査研究および発信事業の要件定義】

・リサーチテーマの検討、機能の洗い出し、運用プラットフォームを含めてロードマップを作る。

想定されるコンテンツ

【教員・学校領域】

・キャリアパスポート×わくわくエンジン事例、情報収集、発信

・コミュニティスクール×わくわくエンジン事例、情報収集、発信

(経済産業省 キャリア教育連携表彰エントリー等)

・教育変革に取り組む学校や実践者との情報交換、連携、対談 (広報と連携)

【企業・社会人】

・人的資本経営、パーパス経営、人材育成/越境学習、ウェルビーイング実践企業や研究団体との情報交換、連携の可能性模索、対談 (広報と連携)

⑥その他目的達成のために必要な事業

1) 会員力最大化 <事業展開図 K 会員力最大化>

■23 年度のテーマ

会員こそが普及の震源地。

自分もわくわく、相手もわくわくさせながら、共感と感動の共鳴を広げよう。

■23 年度の目標

- ・「自分もわくわく、相手もわくわく」をモットーに活動する。
- ・会員同士の交流を深めながら、これまで以上に愛あるコミュニティに進化させる。
- ・地域で一人ぼっちと感じる会員をなくす。仲間存在を感じてもらえるような場をつくっていく。
- ・キーパーソン 21 に共感くださる様々なステークホルダーと感動を共有し、思いを実現していくことのできるコミュニティとしての場をつくっていく。

■活動項目

会員とのコミュニケーションの機会や時間を増やし、会員主体で知恵を出し合える会議や交流、創発の場を育てていく。

- ・「わくわくナビゲーターたち」が「わくわくエンジン」を日常生活の中で活用できるように、出来事などをシェアし共鳴し合える「わくわくコミュニティ」を皆さんと共につくり育んでいく。広報と連動する。
- ・「わくわくエンジン」が地域に浸透するよう、新しいチャレンジをしようとする会員や地域チームのメンバーの会議や交流の場を作る。
- ・毎月 21 日にキーパーソン 21 の日！を広報と連携してオンラインで開催する。会員やステークホルダーによる会員活動の報告から感動のシェアをし、共鳴を増やしていく。

(2) 営利活動に係るその他の事業

①寄贈品、グッズなどの物品販売

特に活動計画なし

②著作、出版物の制作・販売

特に活動計画なし

③会員のサークル活動支援事業

特に活動計画なし

【管理部門】

1) 財政基盤を構築する <事業展開図 J 財務>

■ 23 年度のテーマ

マンスリーサポーター制度の認知度向上

■ 23 年度の目標

マンスリーサポーター新規 20 名

■ 活動項目 広報領域と協働して進める

【寄付募集活動】

- ・マンスリーサポーター制度のチョコッと広報をさまざまな活動に入れる。
- ・募集用ランディングページ（LP）のリンクをキーパーソン 21 の全ての媒体更新時に入れる。

【ファンド資金調達】

- ・企業/財団等からの問い合わせ対応/申請案件の担当アサインとフォローを行う。
- ・各種企業/財団等/自治体への助成金申請を行う。
- ・既存の寄付受領企業/団体への報告およびコミュニケーションを強化する。

【効果測定】

- ・マンスリーサポーターLP の PV 捕捉を調査する。

2) 組織改革・基盤強化 <事業展開図 G・H・I 総務/人事/経理>

■ 23 年度のテーマ

理事/事務局/その他スタッフも明るく楽しくわくわくと働ける組織をめざす。

■ 23 年度の目標

感謝と応援のコミュニケーションを増やし、一人ひとりがやりがいを実感する。

■ 活動項目

【総務】

- ・認定/条例指定の指摘事項に 22 年/23 年の活動記録から対応する。
- ・グッドガバナンス認証の更新と、それに基づいた組織運営を行う。
- ・購入規定/予算管理/電子文書を含む情報管理等の必要な規定やルールの整備を行う。
- ・メールアドレス、メーリングリストおよび各種コミュニケーションツールのアカウント管理、権限および、利用方法 / ルールの明文化、その管理体制を強化する。

【人事・労務】

- ・広報をはじめとする、不足人員の採用を進める。
- ・中期計画にもとづく 24 年以降の体制準備を進める。
- ・予算立案・業務配分・面談・契約・評価・報酬の仕組みの改良を検討する。

【経理】

- ・23 年度予算を期初において、11 の活動領域ではなく勘定科目で管理できるように振り分ける。（決算処理負担軽減、月次管理レベル向上、事業区分別や個別プロジェクトの予算管理等を目指す）
- ・月次の予実管理の継続実施とレベル向上および、月に一度の理事会で報告共有する。
- ・地域チームにおける会計の管理を強化する。（源泉徴収の対応開始）
- ・インボイス対応する。（請求書にインボイス登録番号を明記する）

3) 戦略を立案する <事業展開図 G 戦略>**■23 年度のテーマ**

24 年～26 年の中期経営計画を立案する。

■23 年度の目標

- ・キーパーソン 21 の中期経営計画を立案する。

■活動項目

- ・キーパーソン 21 のビジョン、ミッション、バリュー、パーパスを再定義する。
- ・定款の見直しを含み、事業の再編を検討する。
- ・新体制を立案し構築する。
- ・23 年度の事業計画に基づき、四半期に一度、理事会において確認を行う。

以上

2023年度 活動予算書(案)

(特定非営利活動に係る事業会計)
 2023年4月1日から2024年3月31日まで
 特定非営利活動法人キーパーソン21

[税抜] (単位:円)

科 目	税 抜	備 考
I 経常収益		
1. 会費 (個人・団体)	4,200,000	法人・個人
2. 寄付・賛助金	978,000	法人・個人
3. 受取助成金等	1,400,000	
4. 事業収入		
(1) 特定非営利活動に係る事業		
① キャリアプログラムの開発・展開事業収益		
開発事業	0	
事務局実施 (自主開催・学校実施)	1,646,000	オンラインですきなもののピンゴ¥300,000
企業連携実施	6,646,000	首都圏¥2,170,000 川崎¥4,476,000
地域チーム実施	2,236,000	
② キャリアプログラムの普及啓発事業収益		
わくわくナビゲーター養成	1,291,000	
パートナーサポート	2,545,000	
広報コミュニケーション活動収益	182,000	諸団体と連携/講演・セミナー・研修
③ 社会参加支援事業収益		
なかわく	17,840,140	
寺子屋	1,000,000	
④ 人材育成を目的とした企業、団体等への助言、研修事業収益	436,000	
⑤ 教育に係わる情報収集、調査研究及び発信事業	0	
⑥ その他目的達成のために必要な事業	0	
(2) その他の事業		
① 寄贈品、グッズなどの物品販売	0	
② 著作、出版物の制作・販売	0	
③ 会員のサークル活動支援事業	0	
経常収益計 (A)	40,400,140	
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 給料、業務委託料、謝金	24,154,000	給与、実施プロマネ、なかわく、こすわく
人件費計	24,154,000	
(2) その他経費		
諸謝金	700,000	チーム謝金、寺子屋講師謝金他
外注費	45,000	
会議費	366,000	会場費、茶菓
旅費交通費	2,033,000	スタッフ出張費
広報費	0	
通信費	455,000	電話、切手、インターネット、宅配
事務・消耗品	913,000	事務用品、インク、コピー、消耗品 他
水道光熱費	14,000	電気、水道 (こすわく分)
保険料	114,000	学習支援児童保険
家賃	350,000	家賃(こすわく分)
諸会費	0	
租税公課	10,000	印紙、
リース料	155,000	プリンター
手数料	14,000	振込手数料等
雑費	300,000	消費税他
その他経費計	5,469,000	
事業費計	29,623,000	
2 管理費		
(1) 給料、業務委託料、謝金等	7,664,000	経理、会員管理、庶務
法定福利費	2,000,000	社会保険料
人件費計	9,664,000	
(2) その他経費		
諸謝金	64,000	
外注費	1,000,000	経理データ入力、ホームページ更新他
会議費	52,000	会場費、茶菓
旅費交通費	331,000	事務局通勤費
広報費	0	
通信費	636,000	電話、切手、インターネット、宅配
事務・消耗品費	205,000	事務用品、インク、コピー、消耗品 他
水道光熱費	36,000	電気、水道
備品費	0	
保険料	46,000	ボランティア保険
家賃	691,000	事務所家賃、更新料
諸会費	50,000	
租税公課	5,000	印紙
リース料	45,000	プリンター
手数料	227,000	振込手数料、決済手数料他
管理諸費	182,000	決算書作成他
雑費	45,000	
その他経費計	3,615,000	
管理費計	13,279,000	
経常費用計 (B)	42,902,000	
税引前当期正味財産増減額 (C) = (A) - (B)	△ 2,501,860	
法人税、住民税等 (D)	70,000	
当期正味財産増減額 (E) = (C) - (D)	△ 2,571,860	
前期繰越正味財産額 (F)	43,141,129	
次期繰越正味財産額 (E) + (F)	40,569,269	

(注)

1. 消費税等の処理は、税抜方式によっています。
前期繰越正味財産額は、税抜方式によって作成された2023年3月31日現在の貸借対照表における正味財産合計の金額で表示しています。
2. 2023年度活動予算書では、役員との以下の取引を予算として計上しています。

		[税抜] (単位：円)
科目	取引内容	金額(円)
(経常収益) 受取会費	理事、監事及びその近親者からの会費の受取	120,000円
(経常費用) 事業費 給与等	役員報酬 理事への使用人給与および委託費	2,340,000円 6,000,000円
(経常費用) 管理費 給与等	役員報酬 理事への使用人給与および委託費	860,000円 545,457円

支払総額：役員報酬3,200,000円、理事への給与及び委託費：6,545,457円